



賀川豊彦の人柄がにじみ出るような肖像画が並ぶ会場＝賀川記念館

賀川豊彦 絵画で紹介

神戸の記念館 肖像画など250点

日本の社会運動の草分け、賀川豊彦（1888～1960年）を絵画で紹介する特別展が、神戸市中央区吾妻通5の賀川記念館で開かれている。肖像画や、評伝の挿絵など約250点が並び、神戸ゆかりの活動家の功績や人柄に触れることができ、3月30日まで。

賀川は兵庫区に生まれ、徳島県で育ち洗礼を受けた。神戸のスラムで貧困救済をし、体験を基にした小説「死線を超えて」はベストセラーに。労働争議や農民組合の結成に尽力し、コープこうべの前身の設立にかかわった。海外で知名度が高く、ノーベル文学賞、平和賞の候補になった。特別展は同館50周年を記念して開き、展示物は東京や徳島などの賀川ゆかりの施設から借りた。

会場には、賀川が師と仰いだ牧師の息子、長尾己らが描いた肖像画が並び、穏やかな笑みが印象深い。賀川の評伝がキリスト新聞に掲載された時に、長尾が手掛けた挿絵では、賀川が「死線」を執筆する姿やストライキの様子などが描かれている。川西市の彫刻家小杉三朗さんが制作し、日本生活協同組合連合会本部（東京）にある賀川像の写真も展示している。

賀川記念館の西義人さん（71）は「日本の近代化に一番影響を与えた彼がどのような人だったかを見て感じて」と話す。午前10時～午後5時。月曜休み。一般300円、中高生100円。賀川記念館 ☎078・2221・3627（藤村有希子）